

南アフリカ為替週報

2022年3月10日 | みずほ銀行欧州資金部

<過去1週間の動き>

(3月3日～3月9日)

USD/ZAR: 14.9800～15.4950

ZAR/JPY: 7.42～7.72 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、対ドルでは、4日の下押しを除けば、堅調気味の横ばいを支配的とし、比較的安定的な推移が続けたようにも見えた。ただし、並行して現地国債、株式市場はそれぞれ急落、ロシア・ルーブルは別物として、同じ資源通貨でも豪ドル、ニュージーランド・ドルなどに対しては乱高下、同じ新興市場通貨でもポーランド・ズロチやハンガリー・フォリントなど武力衝突の「直撃」を受けた通貨に対しても乱高下と、対ドルでの横ばいとは裏腹に激しい値動きを見せた。一連の乱高下のうち、中/東欧通貨に対する乱高下は、中/東欧通貨側の要因(注)による値動きと見做すことができた。全般的な地合いとして、紛争国から遠隔地にあることは新興市場経済の中でも投資資金の逃避先としての有力候補として南ア資産を下支え/押し上げる要因と読まれるものと考えられた。一方で、燃料価格急騰は燃料純輸入国である南ア経済には成長阻害要因、同時に資源価格全般の高騰は逆に成長促進要因と読めたはず。この間観察された南ア金融資産(国債、株式)の一方的な急落や、その他資源通貨に対する乱高下(7日に掛けて急落、その後急反発)、更に9日に至って南ア金融資産(国債、株式、通貨)がトリプル高に転じた背景は定かではなかった。8日発表された南ア第4四半期GDPは、概ね市場予想に沿った水準で特段材料視されず。季調済前期比+1.2%は決して弱い数字には見えないものの、大規模な暴動(7月)の影響を受けた第3四半期の落ち込みの反動と位置付ければ、物足りない数字には違いなかっただろう。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
3/7	6:00	総外貨準備高(USD)	2月	57.69bn	58.00bn	57.20bn
3/8	9:30	GDP(前年比)	Q4	+1.7%	+1.8%	+2.9%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう1週間の見通し>

(3月10日～3月16日)

USD/ZAR: 14.850～14.200

ZAR/JPY: 7.60～7.80

向こう1週間の南ア・ランド相場は、思惑の交錯した膠着を中心に予想。敢えて選ぶならランド安方向を警戒する。「思惑の交錯」というのは、この場合、よくわからないということである。足元不透明感の最大の供給源がウクライナ情勢であり、その落としどころが見えない以上、よくわからない状況が長期化するのも避けられないことのように思われる。同時にもうひとつよくわからないのは、この間の南ア金融資産の反応。上述の通り、24日にロシアとウクライナが交戦状態に入ってから、①燃料価格の上昇圧力は南ア経済、貿易/経常/財政収支の圧迫要因 ②並行して資源価格全般の上昇は同押し上げ要因 ③紛争から遠隔地にあるという距離が南ア金融資産に「新興市場経済の中の安全資産」としてのステイタスを与えているといった諸条件は一貫している。相場というものが永遠に一方に動かないのは自明のことだが、それにしても過去2週間の乱高下の背景で何が変化したのかわからない。仮に、足元相場がわからないことを認めるとしても、南ア国債も南ア株も大きく売り込まれたのは厳然とした事実(とりわけ南ア国債の売られっぷりには意外感が強い)。ランドに強気になれない理由だ。ひとつだけ潜在的なランド押し上げ要因に挙げられそうなのは、南ア準備銀利上げ観測。物価上振れは世界共通で、利上げ圧力の高まりも世界共通だが、金利先渡市場(FRA)の恒常的な前のめりとは裏腹に、一貫して市場全般の利上げ織り込みが出遅れる傾向は、今後(他中銀の利上げ観測に)追いつき/追い越す余地の大きさを示唆するのではないか。

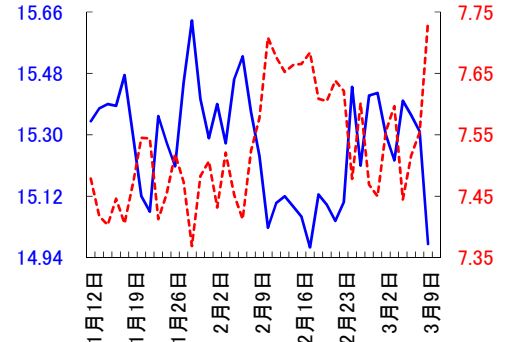
<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
3/10	9:00	経常収支(ZAR)	Q4		+147bn	+226bn
	9:30	鉱業生産(前年比)	1月		+1.4%	-1.1%
	11:00	製造業生産(前年比)	1月		+2.6%	-0.1%
3/15-3/31		失業率	Q4		35.0%	34.9%
3/16	11:00	小売売上高(前年比)	1月			+3.1%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

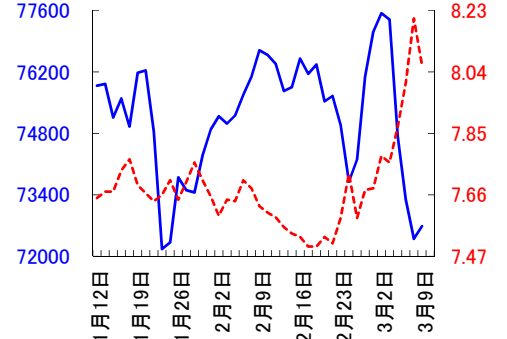
為替相場の推移(資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE 全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		4.00%
長期金利(10年スワップ)	3月9日	8.060%
株価指数(JSE 全株)	3月9日	72684.82
成長率(GDP/前年比)	Q4	+1.7%
経常収支(ZAR)	Q3	+226bn
失業率	Q3	34.9%
消費者物価(前年比)	1月	+5.7%
小売売上高(前年比)	12月	+3.1%
製造業生産(前年比)	12月	-0.1%
鉱業生産(前年比)	12月	-1.1%
貿易収支(ZAR)	1月	+3.6bn
金価格(ロンドン 17:00)	3月9日	2001.42

(注) まず、ウクライナとの地理的接近、欧州ガス価格高騰、難民流入などに関する懸念を受けた急落が先行し、8日以降、ポーランド、ハンガリーの利上げ、ポーランド、チェコの自国通貨買い為替介入、EU 共同債発行(危機対応)観測などを受けて急反発した

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。